

## 「誓いの言葉」

柔らかな春風に心華やぐ季節となりました。  
私たち十六回生は、これからの学校生活への期待を胸に、入学式を迎えました。

私は小学六年生の時、一年生から六年生までが集う班のリーダーを務めていました。その班で物事を進めることが多かったのですが、多くのことを私たちの話し合いで決めていました。つまり、先生方の力をあまりお借りすることができないことから、リーダーである私が何かと進めていかなければならなかった場面もあったのです。

話し合いの時は、各学年の児童がいつも話し合いについてこられて集中できるように、低学年の児童が言ったこと、高学年の児童が言ったことをそれぞれまとめ、分かり易く伝える努力をしてきました。行事によっては、それぞれの役割を一人で決める時もありました。できる限り自由に、希望に沿った役割をあたえられるようにと考えていたため、先生方の力をお借りできない時は、とても辛かったことを覚えています。しかしそれと同時に、児童のみで決めたことを実践できた時のメンバー同士の絆は、とても強くなったように感じます。

このように、私は中等教育学校が求める「自由」を、ほんの少しですが、小学校のときから経験できたのではないかと考えます。

在校生の皆さんの話や、卒業生の方の話では、中等教育学校の活動では、先生方に頼り過ぎず、生徒たちが自主的に発言し、物事を作り上げていくことが多いと伺いました。学校行事の兔原祭や音楽祭、体育祭の進行なども、全て生徒の皆さんで進められていると聞いています。それを実現するためには、この学校の校訓である「自治」、「協同」、「創造」の三つが重要だと考えています。生徒たちが積極的に話し合うことで実行できる「自治」、その話し合いによって生まれる新しい考えから、行動に移る「創造」、それを生徒同士が協力して行うことで生まれる「協同」。この三つを常に意識することで、この校訓を実践できると考えました。

生徒主体で進めることなどから、この学校は自由なところが多いと、卒業生や在校生の方がおっしゃっていました。

自由とは、自らの行いを自分自身で見つめ、責任や義務を果たしたうえで、この先どうより良くしていかなければならないのかを、自分たちの意思で考えるということだと思えます。

感情のみで動くのではなく、行動一つ一つに意味を持たせ、自分ができる最大限の行動を、生徒同士の関りを深め、規律を守り、かつ自由に生徒が生活できる目標を目指すべきだと考えます。

時には間違えることや、自らの行動に悩む時もあるかもしれませんが、私たちは共に学校生活を送る仲間と支え合いながら、互いを高め合っていくことを誓います。

最後に、本日は私たちのために、このような素晴らしい入学式を開催して頂いたこと、新生を代表して御礼申し上げます。

先生方や先輩方、保護者の方々には、これから六年間の学校生活を終えた際、真理探究の精神に富んだグロ―バルキャリア人として社会で活躍できるように、私たちの成長を温かく見守り、ご指導いただきますようお願い致します。

以上を持ちまして、誓いの言葉とさせていただきます。

令和六年 四月八日

十六回生 新生代表 神田 琉衣